



KUMAMOTO



2014年12月号

国際会長主題	「言葉より行動を」 "Talk Less, Do More"	Isaac Palathinkal (India)
スローガン	「今すぐやろう」 "Do it now"	
アジア地域会長主題	「未来を始めよう、今すぐに」 "Start Future Now"	岡野 泰和 (大阪土佐堀)
スローガン	「ひとつのアジア、世界はひとつ」 "One Asia One World"	
西日本区理事主題	「響き合い、ともに歩む」 "To walk together, echoing each other."	松本 武彦 (大阪西)
スローガン	- こころ豊かにワイズ活動を展開し、ワイズスピリットをつないでゆく -	
九州部長主題	『あなたからわたしへ、わたしからあなたへ』	亀浦 正行 (熊本にし)
	"Y's spirit, from you to me and from me to you for generations!"	

熊本クラブ会長主題 溫故知新 -歴史を知り、再活性化へ-

吉本 貞一郎

強調月間

EMC-E
YES

EはExtension (新クラブ設立)。YESは、新クラブ設立を支援する基金です。この基金で集められた資金の2/3は、集められたエリアに戻され、エリア内で使われます。

EMC事業主任 河原 正浩 (京都トップス)



会長徒然

Merry Christmas

会長 吉本 貞一郎

クリスマス、おめでとうございます。メン&メネットの皆さまのご協力でクラブの運営も半分が済み、クリスマス祝会(例会)を迎えることができました。有難うございます。

それにいたしましても、「光陰矢の如し」と申しますが、最も日が短い冬至となりました。日々の変化は僅かなのかもしれません、半年の時間を比べてみると、こんなに遅く日が出て、早くに日が暮れるのかと、時の歩みを感じるこの頃です。

【今月の聖句】

『今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主 メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。』

(ルカによる福音書 2:11)

世界で最初のクリスマス、その第一報が届けられたのは、野にいた羊飼いでした。当時の社会で羊飼いは極めて身分が低かったそうです。しかし、その羊飼いたちに真っ先に救い主の誕生が知らされたのです。羊飼いたちは大喜びでした。「こんな私たちに神様は救い主の誕生を知らせてくれた」と。

救い主イエスは、馬小屋で生またので、羊飼いたちは救い主を探しあて、目にすることができたのです。神様は小さき者に恵みを与えるということが、イエス誕生のときから行われていたのです。実のところ、イエスが何月何日に誕生したのかは聖書にしるされてはいません。誕生したのが、冬なのか夏なのかさえもわかりません。

しかし、救い主のこの世に誕生したことを祝福し、主の恵みに感謝することがクリスマスの本来の意味なのでしょう。

(藤川 登士郎)

皆さんにとって 2014 年はどのような歳でしたでしょうか? 喜怒哀楽、悲喜こもごも、それぞれに積み重ねる歳月に同じ日はありません。そして、「上がらぬ雨」も「明けない夜」もありません。私たちは苦難と共に、それを乗り越える力や知恵を与えられています。このことは、大きな恵みではないでしょうか。

ワイズメンとして日々の生活を大切にしながら活動を進めて参りましょう。その日々の僅かな変化を積み重ね、クラブといたしましても活性化して参りたいものです。

大いなる希望を持って新年を迎えましょう。陽射しは、また徐々に長くなっていくのですから。2015 年もよろしくお願ひいたします。

11月例会について

大 村 豊

11月はYMCAでも多くのプログラムがありました。阿蘇山の小噴火により農産物の生育に心配な点もあります。

12月は、街頭募金、市民クリスマスなど多彩なプログラムが予定されていることなどが吉本会長から紹介されました。

久しぶりに赤星ワイズが登場して、「いのちの電話」の資料が配布され、「古本の寄付」のお願いがありました。じゃがいもファンド、コーヒー販売の報告もあり、堤ワイズからは「夢ネットはちどり」という新しい社団法人を立ち上げて、援助を必要とする高齢者の支援のプログラムを近い将来開始することの発表がありました。

熊本クラブから「ヌーヌーちゃん」への支援の発表もありました。ミャンマーから4月に来熊し、日本語学校に通学中で、堤ワイズのところにホームステイ中です。ヌーヌーちゃんの活躍を応援しましょう。



卓話は、NPO法人熊本温暖化対策センター理事長の田辺裕正先生の「再生エネルギーについて」と題するお話でした。今村ワイズがその就職のお世話になったことの紹介もありました。田辺先生は、環境開発のコンサルタント会社も経営していて、その専門分野に関する博識は驚くべきものがありました。

「IPCC」、「COP21」等における各国の温暖化対策の方向性、石炭から石油を経て原子力発電の時代となつたこと、次の時代は木材、竹、バイオマス、糞尿、地熱、風力、太陽光などの再生エネルギーとなること、それらの技術の発達段階の紹介、電力会社の動向など、長期的展望と現在の問題点の指摘などがありました。



論点が多かったので、考えることも沢山ありました。私達も、日々節電に協力したいのですが、クーラー、ヒーターによる快適な生活は手放せませんし、地球の温暖化対策は緊急事態でしょうし、悩みは尽きません。有益な勉強となる卓話で各メンバー、多くの事を学ぶことができたようでした。

例会スナップ



『Happy birthday & anniversary』



MAMOTO



JMAMOTO



KUMAMOTO



KUMAMOTO



『それぞれにコメントをいただきました』



KUMAMOTO



KUMA

『YMCA国際協力青少年育成年未募金』

- 藤川主事よりアピール、クラブで募金しました -



KUMAMOTO



KUMAMOTO

『じゃがいもF協力のお礼、コーヒーF益金贈呈』



『堤Ys感謝、内田Ysニコニコ報告、司会は吉岡Ys』



『田邊先生 有難うございました』

25周年記念八代クラブ例会に参加して

大 村 豊

11月29日(土)快晴の日、午後3時から八代ホワイトパレスで松本西日本区理事夫妻他多数の参加者により、盛大にかつ和やかな雰囲気のうちに25周年記念八代クラブ例会が行われました。

往路は、私の自動車に上熊本から吉岡久美ワイズ、飽田町の会富町から木山ワイズが同乗して熊本を出発して、高速道路ではない3号線などを通って、自動車のナビの指示通りに会場に到着しました。

例会は、定刻にはじまり、25年の歴史を振りかえりました。

朝比奈ワイズ、内田ワイズが熊本と八代間を多数回往復して、準備の例会に出席し、そのスタート時に大活躍をしたことが思い出されました。

八代クラブ設立時には、八代にYMC Aを作ろうという呼びかけもあったのですが、まだブランチも何もありません。最近、再度、八代にYMC Aを設立しようという新しい動きがありますので、是非実現していただきたいところです。



《八代クラブ 守田富男会長》

記念卓話は、八代博物館の学芸員の先生により、なぜ歴史を学ぶのかということや、八代の歴史を知ることが出来ました。

懇親会は、会場が結婚式の披露宴の後だったことから、少し遅れてのスタートとなりました。秀岳館高校の20数名の太鼓のクラブの部員による勇壮な演奏を楽しむことが出来ました。若さがあふれていたし、その音もすごかったので、圧倒されました。



《懇親会は秀学館の和太鼓でスタート》

今回の記念例会は、「まだ、25歳」というキャッチフレーズでしたが、毎年夏のディキャンプが10数年間続いていること、高く評価されていること、沖村先生の

タイでの活躍、メロンファンドや素晴らしい刺激的なベリーダンスなど多くのプログラムを思い出したり、再認識したりして、継続することの大切さを感じました。

吉本ワイズとメネットも参加しましたが、帰路は、酔った島崎の堤ワイズが加わって、合計4名で、高速道路に乗って帰宅しました。

八代クラブは、メンバー8名ですが、コメットも参加しての印象的な例会となりました。

親クラブとして、熊本クラブからの参加者が少なかったことは残念なことですが、次の30周年に向けて出来るだけの協力に努めましょう。



《宮川Ysより謝辞と抱負が述べられました》



《スポンサーとしてお祝いを申し上げました》



《熊本クラブからの参加者》

龍馬の横顔と「たっついがはいかん！」

今村 格

先月、高知に住む父方の叔母が亡くなったという連絡を受け、二人の姉と我が家へのメネットと一緒に高知を訪問した。叔母の家の家の弔問が終わり、今回の訪問を待っていてくれた納骨を済ませ、今回の高知訪問の目的を果たすことが出来た。二十数年ぶりに再会できた従妹とその家族とも親しく話が出来て、心温まる旅の始まりとなった。



ホテルに帰り、食事に出た「ひろめ市場」で出会った言葉が「たっついがはいかん！」。キリンビールが高知のご当地キャンペーンで使い、注目を集めている土佐弁である。「たっつい」 + 「が」 + 「はいかん！」と読み解くと、「たっつい」は、「たすい」の強調語で「薄い・頼りない・弱い」 ≈ 「生ぬるい」(飲み物だけの話ではなく、態度や性格も含む) を意味し、「が」は人とかモノを指す言葉、「はいかん！」は説明の必要はなさそうで、「生ぬるいのはダメだ！」とでも訳せそうな言葉である。

言葉の面白さもさることながら、たまたま隣り合つた若者が、「たっついが」ってどういう意味だろうと言い合っていた私達に、前述の意味を教えてくれた人情が言葉と共に印象的であった。

翌朝は早起きして、高知市の中心部で開かれる「日曜市」を訪ねた。全国に有名な朝市はいくつもあるが、街の中心部に3kmに亘り開かれる朝市は圧巻であり、観光客相手というより地元の人達を相手にする露店が多いのも親しみの持てる由縁である。



その後、折角の機会だからと訪ねた桂浜は、太平洋を望む龍馬の像で有名な観光地だが、「龍馬の目線で太平洋を望む」というキャンペーンが展開中で、龍馬の顔の高さに並ぶ仮設の展望台が作られていた。高くそびえる龍馬像を見上げて感動した経験は何度かあるが、龍馬の横顔を間近で観る得がたい機会に恵まれたのは幸運であった。

一泊二日の慌ただしい旅であったが、気さくで優しかった叔母を偲ぶことが出来、暖かい人情にも触れ、懐かしい龍馬にも再会出来た実り多い旅であった。

熊本 YMCA 街頭募金

会長 吉本 貞一郎

例年のように12月の第1日曜日、熊本YMCA街頭募金が行われました。教会を終えて、短時間ですがのぞいてみました。

自宅にあった小銭をたくさん準備し、頑張っている子供たちの励みになるように募金箱を持っている皆さんにできるだけ入れるようにいたしました。

YMCAではリソースモビライゼーション(RM)なる活動に取組んでいるそうです。resource/資源・資産とmobilization/動員・運用という意味ですが、寄付(献金)がこの範疇にはいるそうで、ファンド・ディベロップメント委員会にて推進されています。英語のニュアンスは分かりかねますが、それぞれの会員が持つ能力、人的な力や財的な献金を最大限に活用する施策なのでしょうか。いくつかの団体では「民間資金の導入・活用」と表現されておりました。ただ、私は単なる献金、お金集めではなく、RMとしての寄付の違いを理解できています。

さて、街頭募金に参加したとは言い難い短時間の訪問?でしたが、いつものようにYMCAに集う子供たちが「ともに支える社会」という運動に参画することに喜びを感じます。他の団体でスポーツ等の活動をしている子供たちには、街頭募金で声を上げ、お願いをする機会はないでしょう。この得難い経験が、将来の糧として社会に還元されるのであれば素晴らしい活動だと思います。

水前寺幼稚園の子供たちから私たちワイスまで、数世代にわたるYMCAに集う人々が、思いを同じくして活動できる幸せを感じた一時でした。

次の機会には、多くのワイスがお金をに入れ、励ましに行っていただきたいと思っています。

☆ 国際協力青少年育成年募金

2014年度 募金目標 1,500万円

～世界中で、ともに分かち合う、平和な世界をめざして～

見つめています ひとつひとつのいのち

- ◇ 経済的な理由でプログラムに参加できない子供たちのために ◇ 経済的な理由で進学できない青少年の学びの場の提供のために ◇ シニア世代の健康年齢延長のために ◇ 障がい者の自立支援のために ◇ 地球市民育成のために ◇ 災害復興支援のために ◇ 国際協力活動のために

理事通信

西日本区理事 松本 武彦



これまで述べてきたことですが、ワイズメンズ運動は、Y M C Aや地域社会・国際社会への奉仕活動を通じて自己を鍛える機会と交流の喜びを得ることに大きな意義があり、社会的必要性もある、ワイズメンズ運動

はまた、自分自身はもちろん、周りの人たちをも勇気付け励ます大きな働きをしている、と確信しています。私たちのワイズメンズ運動は、次世代を担う人々をも励まし続ける貴重な活動であり、これを次世代につなげてゆかなければなりません。そのためには、周りの人たち、特に、次世代を担う若い人たちに、ワイズメンズ運動を、まず、身近なものとして感じ取ってもらう機会を作らなければなりません。周りの人たち、特に若い人たちをクラブ例会やクラブ行事に誘い、私たちのワイズメンズ運動に馴染んでもらいメンバーとなって貰うための工夫が必要です。クラブ例会を多数参加の盛り上がりのある集いとすることの工夫も大事かと思います。このような機会を作る工夫のひとつとして、西日本区内の各地・クラブにおいて、100人例会や合同例会を開催してビジターを誘い、例会プログラムをワイズと一緒に楽しんで頂く催しが行われています。例会参加者数が多いことは、そのことだけでも、ビジターに対し、参加したことの喜びを大きなものとさせることに繋がります。

先月、我々の仲間二人の力強い社会的活動がテレビ番組に取り上げられ報道されました。福岡中央クラブメンバーであって、1987年、享年68で人生の終末を迎えた杉山龍丸さんのインドにおける緑化運動を取り上げたテレビ東京系11月4日

(火) 午後7時からの報道番組「ありえへん∞世界＜世界と日本の知られざる絆＞インド編」がその一つ。二つ目の報道は、鳥取クラブメンバーである藤原和寛さんの、故郷・鳥取県智頭町における地方活性化のためのお働きを取り上げたテレビ朝日系11月15日(土)午後6時からの報道番組「人生の楽園 夫婦で探す故郷の宝」です。藤原さんは、かつて農業で栄えた自分の故郷が次第に衰退していく様子に胸を痛め、故郷をもう一度元気にしたいと5年前、52歳で早期退職し、奥さまと一緒にUターンして、地元の杉を使った木工を始めるとともに農業にも取り組み、地元の活性化につなげるため、廃校となつた地元小学校の校舎にギャラリーをオープンし、また、地元の方々と男子会や女子会をもって懇親するとともに集落の未来へ向けた話し合いをするなどして、地域の活性化のため、日々奮闘しておられます。藤原さんの地元・智頭町でのご活躍は他の地方の人々にも映つて日本のあちこちの地方の方々を勇気づけ励ますでしょう。これらの報道ではお二人がワイズメンであることには触れられていませんが、私たちは、お二人の社会活性化のための力強いお働き

に勇気を貰い、これからワイズメンズ運動を盛り上げて行こうではありませんか。

【Y M C Aだより】

連絡主事 藤川 登士郎

☆ 「Y M C A国際協力青少年育成年末募金」 街頭募金

12月7日(日)にY M C A国際協力青少年育成年末募金の街頭募金を行いました。

中央Y M C Aは主に上通アーケードと鶴屋前を担当し、寒空の中大きな声で募金を呼びかけました。今年多くの善意が集められトータルで421,336円(街頭募金のみ)となりました。

☆ 「第3回あそぼうキャンプ」実施

12月12~14日(金~日)で「あそぼうキャンプ」が阿蘇Y M C A行われました。このキャンプは当初、東日本大震災被災児を対象としたキャンプでしたが、九州北部豪雨被災児、そして今年は広島集中豪雨被災児を新たに迎えての実施となりました。

精神科医師3名、臨床心理士2名のご協力を得、8名のボランティアリーダーとともに楽しいキャンプとなりました。

☆ 市民クリスマスコンサート

12月16日(火)に森都心プラザホールにて市民クリスマスコンサートが開かれました。シンガーソングライターで牧師の陣内大蔵さんの素晴らしい歌声と神様のお話はクリスマス間近のこの時期にとてもふさわしいひとときでした。

◇◆◇ ワイズ運営メモ スケジュール

月/日	(行 事)
12月	
25日	ファミリークリスマス例会
1月	
8日	新春放談会
9日	合同新年例会(ニュースカイ)
22日	新年会
24日	ボランティアディ(予定)
30日	熊本バンド記念早天祈祷会
2月	
12日	事務例会
14日	鹿児島クラブ25周年
26日	TOF例会
3月	
22日	熊本むさしクラブ20周年

【編集後記】

今年も残りわずかとなりました。特に、土日が御用納めと重なって26日が実質的な最終日となっています。慌しさがひとしおですね。それに、この寒さ!インフルエンザも流行と一月早いと言いたくなります。

皆さん、健康や事故に留意しながら年末年始をお過ごしください。(吉本)

'14-'15 熊本ワイズメンズクラブ 12月事務例会記録 拠点

日時：12月11日(木)19:00～21:00 場所：熊本中央 YMCA 柴苑会室
出席：吉本・米倉・木山・藤川・大村・今村 (出席6名)

【協議事項】

1. 例会

- 1) 12月ファミリークリスマス例会 12/25 19:00～21:30 キャッスル
2部 (礼拝・祝会) クリスマスマッセージ (堤 Ys) 司会 (秋根 Ys)
祝会 プレゼント交換今村担当・ゲーム藤川担当 etc.
メネット・コメット¥4,000 未成人コメット¥0 ビジター¥5,000.-
プレゼント¥1,000/人 年末ニコニコ コミュニケーションタイム

2) 1月例会

- 1月8日(木)ウェルビーで鍋を囲んでの事務例会・新春放談会
1月22日19～21時 キャッスル以外で新春例会(実行委員会)

3) 2月 TOF 例会 2月26日 19:00～21:00 熊本ホテルキャッスル 司会、食前感謝、卓話について継続審議

4) 3月例会 3/26 19:00～21:00 熊本ホテルキャッスル

2. YMCA

1/30(金) 早天祈祷会

1/24(土) ボランティアデー(?) 事業との関係、詳細を後日報告

3. 合同新春例会

2015.1.9(金) 19:00～ ニュースカイホテルにて 会費 6000円
幹事は「ひがしクラブ」 希望者のみ、移動例会とはしない。

4. 次期会長確認

次期および次々期会長についての確認 継続審議

5. クラブファンについて

お米ファン復活(福島氏 30Kg×2 今村 Ys10Kg×1) コーヒー販売

6. ブリテン原稿 12/20(土) 必ず切

11月例会報告(大村) 会長通信(吉本) YMCA報告(藤川)
街頭募金() 八代25周年(大村)

7. その他

熊本クラブ65周年 大邱訪問 4/17～19(金～日)を候補として検討

3/15(日) チャリティーマラソン 益城総合グランド 実行委員

1/27(火) 連絡会議 2/14(土) 鹿児島25周年

【報告事項】

1. YMCA 募金(街頭募金¥421,336) 全体¥5,222,467(昨年同期比110%)

チャリティーコンサート クラブより¥1,500×10枚 協賛

2. ミャンマー支援 2月スタディツアーホーム院の建設運営費

3. 半年報(1/1付)

4. EMC その他

YMCAの歌

若人の あつきいのりは 百年の歴史をつづる
とこしえの のぞみにもえて さかえあり
YMCA われらまた こぞりて起たん



熊本YMCAの歌

森の都の朝ぼらけ 有明波の凪ぐところ
み神の愛といさおしを 称えて集う若人の
心に響くときの声 目覚めて今ぞ 立ち上がり
YMCA こぞれりここに

目的

ワイズメン、ワイズネットは一個の理想主義者であることが求められています。

それには、何をおいても先ずYMCAに対する奉仕を旨とし、YMCAとのつながりを一層強め深めるための方向づけや活動方針、さらにはそのための具体的プログラムの策定など、クラブがそれぞれの地にあってこれらを実現し、献身奉仕することを心がけなければなりません。

みんなのものが一つとなってワイズダムの"きずな"をより強く結び、ともども YMCA運動へ仕えることを願うものです。

- Our Motto -

"To acknowledge the duty that accompanies every right"

Today's program

2014年12月25日 19:00～21:30

熊本ホテルキャッスル

ファミリークリスマス例会

進行：秋根 Ys

1部 礼拝

讃美歌 109

聖句 ヨハネ伝 1:4-5

メッセージ

「輝き続けるたましいの光」

堤 Ys

讃美歌 106

2部 祝会

開会宣言・点鐘

ワイズソング「いざ立て」

ゲスト・ビジター紹介

Happy birthday & anniversary

乾杯

* プレゼント&ゲーム etc.

ニコニコタイム・アピールタイム

「なごりはつきねど」

閉会挨拶・点鐘

先月例会記録(2014.11.27)

在籍会員	30
出席会員	17
功労会員	1
広義会員	1
マイキャップ	
出席率	60.7%
ゲスト	1
ビジター	1
メネット	6
コメット	
例会出席総数	25
BF(プラザーフッドファンド)	
2014年度献金(現金)	
クラブファン(ニコニコ)	
前月残高	114,978
11月献金	23,249
11月支出	69,709
11月残高	68,518